



考えよう、これからの暮らし

[募集概要]

■概要

「OPEN SWITCH 考えよう、これからの暮らし」ではコロナ禍で変化した暮らしにおける新たな社会価値の創出を目指す事業アイデアを募集します。応募コースには2つあり、それぞれ入賞者には、LIFULL がそのアイディア実現のため様々なサポートを行います。
私たちと共に、新たな価値観の創出を目指しましょう。

■募集期間

2020年9月25日～10月31日

■応募条件

コロナ禍で変化した暮らしにおける新たな社会価値の創出を目指す事業プラン、事業プランのビジョンが、LIFULL のビジョンに沿っており、解決する課題が以下の領域、テーマのいずれかに合致していることを応募条件とします。

■LIFULL が目指すこと

より多くの人々が心からの「安心」と「喜び」を得られる社会
あらゆる LIFE が FULL になる社会

■募集テーマ

事項の5つのテーマより詳細ご参照ください。

募集テーマ① 住まい・暮らし

LIFULL が
目指すこと

社会変化

出典

“これからの暮らし”における 社会課題テーマ

LIFULL が事業として取り
組んでいる関連アクション

関連する
SDGs

より多くの人々が心からの「安心」と「喜び」を得られる社会
あらゆる「LIFULL が FUCI 」になる社会

- コロナ禍以降、仕事・プライベートを問わず、オンラインでのコミュニケーションが活用され始めた。
- 一方で、従来どおりのオフラインコミュニケーションは、改めてその価値が見直され始める。
- 感染拡大を防ぐ工夫をしながらも、よりオフラインコミュニケーションの意義を高めていくことが、社会生活をより円滑にしていく上で大切な問題である。

- 「新型コロナショックがもたらしたコミュニケーションの変化と進化」
(<https://comemo.nikkei.com/n/n6a97442051c2#qJE6B>)

今後、人々の暮らし方は住まいを中心
どのように変化するだろうか？

社会課題例①

安心で楽しい地域の他者との
コミュニケーション（コミュニ
ティ）を生むにはどのようなア
イデアが考えられるか？



- コロナ禍を経たリモートワークの普及によって自宅環境を整える人が急増。
- LIFULL の独自調査によれば「家具・インテリア・花・植物といった自宅の環境を整備した」と回答した人は 4 人に 1 人。
- 今まででは「住む」場所だった家が、「仕事をする」場所という側面も持ち始めている。
- 自宅に小さい子どもがいる家庭では、子どもから離れて仕事をする場所がないという声も。

- 「テレワークの環境に対する不満 TOP3、3 位
仕事用のデスクや椅子がない、2 位専用スペー
スがない、1 位は？」
(https://news.yahoo.co.jp/articles/a8f47a99fd14fae_dc76eb33c0fdbbe0fe64fb0748)

社会課題例②

一つの住まいの中で、家族と個
人それぞれの時間のバランスを
手助けするにはどのようなこと
ができるか？

全国の不動産を「借りる」「買う」から「建てる」「リ
フォームする」「投資する」まで、幅広い豊富な
情報を提供する総掲載物件数 No.1(※)の不動産・
住宅情報の総合サイトです。※産経広告社調べ
(2019.1.7)

<https://www.homes.co.jp/>



募集テーマ② 地方創生・多拠点居住・まちづくり

LIFULLが
目指すこと

社会変化

出典

“これからの暮らし”における 社会課題テーマ

LIFULLが事業として取り
組んでいる関連アクション

関連する
SDGs

より多くの人々が心からの「安心」と「喜び」を得られる社会
あらゆる「**△△**が**FULL**」になる社会

- 都心や、若者を中心に進むシェアリングエコノミー。しかし、一部の責任感のないユーザーによって、サービスの質が低下する事例も存在（シェアカーサービスで車内が汚いまま次の利用者に引き渡す人など）
- シェアリングエコノミーは地方の過疎化に対する有効な一手になりうるため、モラルを守った利用を促すことは重要。

- 「“シェアリングエコノミー”とは？ 基本ビジネスモデルとサービス内容」
(<https://sharing-economy-lab.jp/share-business-service>)

今後、地方での生活や暮らし方、移住を想定した
まちづくりはどのように変わるだろうか？

社会課題例①

地方でシェアリングエコノミーを推進するために、どのようなまちづくりが必要になるだろうか？

- 超高齢社会を迎える日本において、地方の過疎化、高齢化は大きな問題に。
- 地方の人が都心の医療体制や職に憧れる一方で、都心に住む人が田舎の環境に羨望の眼差しを抱いてもいる。
- 地方と都心の交流がもっとスムーズになれば、過疎化、過密化の打開策となるのではないか。

- 「都会育ちは地方の暮らしになじめない、なんてない。」
(<https://media.lifull.com/stories/2019032245/>)



2033年、3軒に1軒が空き家になるという日本。社会問題と見るか。自由な生き方を入れるチャンスと見るか。「LIFULL 地方創生」は、空き家の再生を軸に、日本に新しいライフスタイルを提案します。

<https://local.lifull.jp/>

社会課題例②

都会と田舎の双方に人材や資源を循環させるためにどのようなことができるか？

9 産業と技術革新の
基盤をつくる



11 住み続けられる
まちづくりを



募集テーマ③ 働き方

LIFULL が
目指すこと

社会変化

出典

“これからの暮らし”における 社会課題テーマ

LIFULL が事業として取り
組んでいる関連アクション

関連する
SDGs

より多くの人々が心からの「安心」と「喜び」を得られる社会
あらゆる「**ワタガ**が**フル**」になる社会

- コロナ禍以降のリモートワーク導入により、仕事においても肩書きではなく個人の力量が重視される風潮が加速。
- 今まで組織が個人の社会的信頼を裏付けていたが、副業やフリーランスも広がってきており、個人が自ら社会的信頼を積み上げて行かねばならない時代に。
- 個人のスキルをどのように評価していくかは、企業人事においても大きな問題。

- 「リモートワークに適した評価制度とは？具体的な評価方法と事例を紹介！」
(https://www.hrbrain.jp/media/evaluation/remotework_evaluation)

今後、会社や場所にとらわれることなく
自由な働き方を実現するにはどのような仕組みが必要か？

社会課題例①

所属や肩書きにとらわれることなく、個人の価値を適切に評価するには、どのような仕組みが必要か？

LivingAnywhere Commons

- 副業やフリーランスが広がる世の中だが、一方で大企業に所属するサラリーマンが思い切って会社を飛び出すことが難しい現状。
- 日本社会にはまだまだ、組織を飛び出して結果を残せないことを失敗と捉える風潮があるのでないか。
- 個人の失敗経験をスキルとして捉える社会意識を醸成することができれば、より自分のやりたい仕事にチャレンジできる土壌が生まれやすくなるのではないか。

- 「複雑な社会課題を『失敗を許容するシステム』で解決する」
(<https://diamond.jp/articles/-/123215>)

社会課題例②

失敗経験が新たなチャレンジにプラスとなる社会を作るために、どのような仕組みが必要か？

場所やライフライン、仕事など、あらゆる制約にしばられることなく、好きな場所でやりたいことをしながら暮らす生き方をともに実践することを目的としたコミュニティです。メンバーになると、日本各地の拠点の共有者となることができます。

<https://livinganywherecommons.com/>



募集テーマ④ 高齢化社会

LIFULL が
目指すこと

社会変化

- 新型コロナ対策のための外出自粛により、高齢者の孤立は、ますます大きな問題となってきた。
- 高齢者の孤立は身体機能の低下だけでなく、うつ病などの精神面や、認知機能の低下にも影響がある。
- 孤独死してしまった高齢者の発見期間が長引くなど、二次被害の拡大も見られる。
- 高齢者が周囲とのつながりを失うことで、当人たちにネガティブな影響があるだけでなく、地域社会の負担も増す。
- 超高齢社会を迎える日本において、高齢者の社会的孤立をいかに防ぐかは大きな社会問題である。
- 新型コロナ対策として密を避ける結果、葬儀の簡素化が進んでいる。
- LIFULL の独自調査に寄せられた声の中にも、「親戚の葬式への参加を見送った」「自分の葬式の形式も今から考えておきたい」という声がある。
- 葬儀だけでなく、埋葬方法も、海洋散骨や樹木葬といった従来のお墓の形式にとらわれない方法が出現している。
- 「どのように生きるか」の多様化が進む一方で、「どのように死ぬか」の多様化はそれほど進んでいない現状。

より多くの人々が心からの「安心」と「喜び」を得られる社会
あらゆる「LIFULL が FULL になる社会」

出典

- 「感染恐れる大家、遺体の長期間放置…コロナが変えた「孤独死」の現場」
(<https://otonanswer.jp/post/68898/>)
- 「新型コロナウイルスが気になり自宅に引きこもる高齢親。フレイルの心配も？」
(https://kaigo.homes.co.jp/qa_article/147/)
- 「簡素化の流れ加速「葬儀業界」コロナ禍の苦悩」
(<https://toyokeizai.net/articles/-/342050>)
- 「死んだら、木の栄養になりたい」夫の一言から樹木葬を選んで【みんなのお墓事情・3】
(<https://news.yahoo.co.jp/articles/6837fd8ac8ce4e777a9a846c81cda1595a61d696>)
- 「博報堂シニアビジネスフォース × 趣味人俱楽部新型コロナウイルス「アクティブシニア」緊急調査」
(<https://www.hakuhodo.co.jp/news/newsrelease/81204/>)

“これからの暮らし”における 社会課題テーマ

今後、シニアの暮らし・人生の選択肢が広がっていくと考えられる。
そのためにどのような課題を解決すべきだろうか？

社会課題例①

孤立の不安を抱える高齢者が、信頼できる他人との繋がりを保つためにどのようなことができるか？

社会課題例②

高齢者本人やその家族が幸せな人生の終え方を実現するためにどのようなことができるか？

社会課題例③

定年後のシニアが、新たなチャレンジや学習機会を得るにはどのようなことができるか？

LIFULL が事業として取り組んでいる関連アクション

関連するSDGs



有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅など、さまざまな高齢者向けの住まいを探すことができる介護施設検索サイトです。日本最大級の介護施設情報を掲載しており、施設への資料請求や見学予約が可能です。

<http://kaigo.homes.co.jp>



募集テーマ⑤ 教育・子育て

LIFULL が
目指すこと

社会変化

- コロナ禍により、オンライン学習の環境整備が一気に進みつつある。
- LIFULL の独自調査でも、「『学び・学習』の選択肢が広がったと思う」と回答した人は 3 人に 1 人。
- 学習においても各自の主体性が求められていく中で、学力格差が開いていく危険性も。
- しかし、親も自分の幼年期と学習環境が異なりすぎるため、自分の子どもに対しアドバイスが出来ない不安を抱えるのではないか

- コロナ禍により、オンライン学習の環境整備が一気に進みつつある。
- LIFULL の独自調査でも、「『学び・学習』の選択肢が広がったと思う」と回答した人は 3 人に 1 人。
- 学習においても各自の主体性が求められていく中で、学力格差が開いていく危険性も。
- しかし、親も自分の幼年期と学習環境が異なりすぎるため、自分の子どもに対しアドバイスが出来ない不安を抱えるのではないか

- スマホやタブレット、スマートスピーカーまで、デジタルデバイスを使いこなす子どもたち。コロナ禍の影響で、こどもたちがデジタルデバイスを見る時間は増加。
- 一方でデジタルデバイスの使用は、詐欺やプライバシー情報の流出など常に危険と隣り合わせ。コロナ禍により正しい情報を自分で収集することが大事という価値観が広まりつつある。
- LIFULL の独自調査によれば「自分で正しい情報を見極めることが大切だと思った」と回答した人は約 80% にものぼる。幼い頃からデジタルリテラシーを身につけることが自衛につながる。

より多くの人々が心からの「安心」と「喜び」を得られる社会
あらゆる「LIFULL が FAM」になる社会

出典

- 「【オンライン学習】『学びの最前線』はアフター コロナでこう変わる…小学校、中学・高校、大学から社会人まで」
(<https://www.businessinsider.jp/post-214222>)

- 「格差が生じるオンライン授業」
(<https://project.nikkeibp.co.jp/pc/atcl/19/08/28/00031/071300050/>)

- 「2 人に 1 人がブルーライトによる時差ボケ状態、「デジタル時差ボケ」に陥っていることが判明」
(<https://ascii.jp/elem/000/004/014/4014616/>)

“これからの暮らし”における 社会課題テーマ

今後、子供たちの学び方、教育方法、
子育ての在り方はどのように変化していくだろうか？

社会課題例①

子どもたちが学びたいことと、
最適な学習方法を提供するため
に、どのような支援ができるか？

社会課題例②

主体性が求められるオンライン
学習で子供たちの学力格差をなくすために、どのような仕組み
が必要か？

社会課題例③

子どもたちが正しいデジタルリ
テラシーを身につけられるよう
に導くにはどのようなことができるか？

LIFULL が事業として取り
組んでいる関連アクション

関連する
SDGs



「子育ても仕事もハッピーに。」をコンセプトに、ママが子育てと仕事を両立しながら、スキルアップできる「ママの就労支援事業」を運営しています。

<http://lifull-fam.com/>

